

Hommage

Dr. Haruo Tsuru (1923 - 1999)

去る 1999 年10月 13 日、教育研究所元所長であられる
都留春夫名誉教授（名誉人文学博士）（76 歳）が急逝されました。

研究所といたしまして、ここに謹んで哀悼の意を表します。

Dr. Haruo Tsuru, former Director of IERS, Professor Emeritus and
Honorary Doctor of Letters, passed away on October 13, 1999.

IERS expresses its condolences.

John Maher
Director of IERS

天国へと飛び去った都留先生を悼んで

星野 命（本学名誉教授、元教育研究所所長）

ICU設立が議せられた50年前の御殿場会議にたしか最年少で参加しておられ、ICUの50年とともに歩んでこられた都留先生が逝かれた。過日の記念礼拝のあと「生き残っているのは都留だけよ」とおっしゃっていた奥様の声が未だ耳の奥に残っているのに、卒然とこの世を去られた都留先生は、今は亡き Dr. Troyer ご夫妻、湯浅ご夫妻、篠遠ご夫妻、そして岡部弥太郎先生たちのおられる天国へと呼び寄せられたのであろうか。

かしこは賑わうかもしれないが、地上に残された私たちは、つらく淋しい。特に30年以上、先任者・教兄とし都留先生に何かと助言を受け、奥様の伸子様ともども公私共に親しくさせてい

いただいた小生と妻とは、小谷先生からの悲報に接して言葉を失った。

ICUにおける先生のご業績とお人柄については、先生がICUを退職なさる前に発行された「教育研究」31号に、ともに教育学科・教育研究所にあるものとして一文を書かせて頂いた。

今それを繰り返すことはしない。その代わりに今年7月8日付で頂いた葉書（私信）の、お言葉を記しておこう。

「お便りと50周年記念の時の写真ありがとうございました。手術のため出席できず残念でした。もう少しで村上英治氏と同じ運命がたどれたのですが、一命をとりとめた感じ。『あと何年か新しいいのちを大切に生きよ』ということだろうと、その日その日を今は新しい生活の習慣づくりと思って過ごしています。星野さんの域にまでは元気になれるとは思いませんが、都心くらいまでは行けるようになりたいと思っています。お元気で俣子さんによろしく。都留春夫」（文中の、村上英治氏は、元名古屋大学教育学部教授で我国における臨床心理学の草分けで、小生の二年先輩。先年病死された。）

都留先生に最後にお目にかかったのは、今年3月31日にICU教会堂であった。この日かつて教育学科・教育研究所の事務・教務を担当しておられた滝本説子さんの告別式（礼拝）が行われた。それより数日前、三人のお子さんをご夫君を残されてこの世を去ったという訃報がもたらされたとき、元気な頃の彼女の働きぶりは思い起こしていたが、告別式に出るかどうか決めかねていた。

そこに都留先生から電話があり、「式には来るのでしょうか。何しろあの方がICUで働くきっかけは、あなたが研究室のアルバイトとして採用したからですよ。」と言われた。

ハッとした小生は、「参ります、参ります。」と答えて、それにしても、そのことを今に至るまで記憶しておられ、まさに当を得た助言をしてくださった先生への感謝と尊敬を深めたのであった。

その先生には、もはやICUキャンパスでお目にかかることはない。先生のご最期が、本館で始まったと聞くにつけても、あそこの二階で学生部長としての日々を過ごされ、学生指導にもあたっておられたことを想い、先生の霊がいつまでも、ICUとその学生の将来を見守り、祝い下さることを心から願って、先生へのはなむけ（しばしのお別れ）の言葉としたい。